

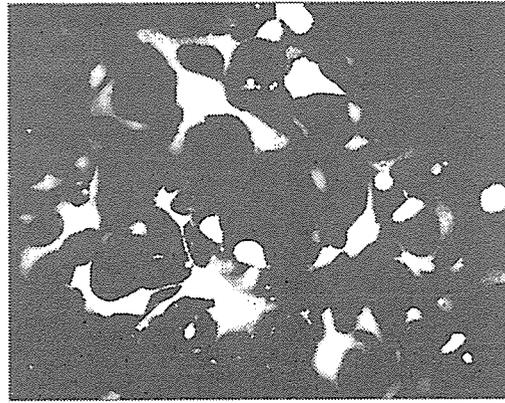
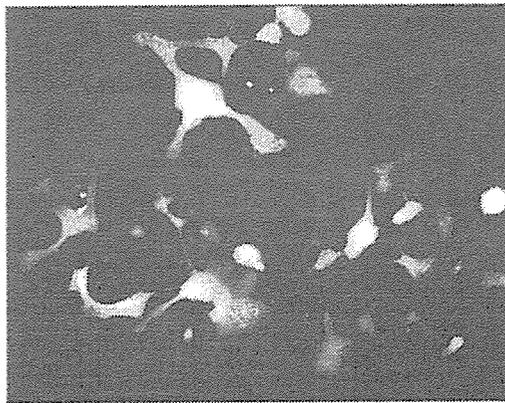
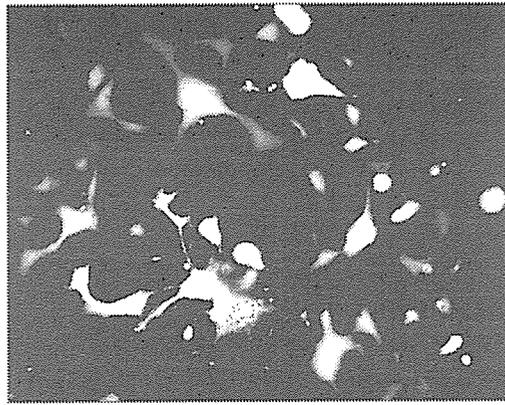
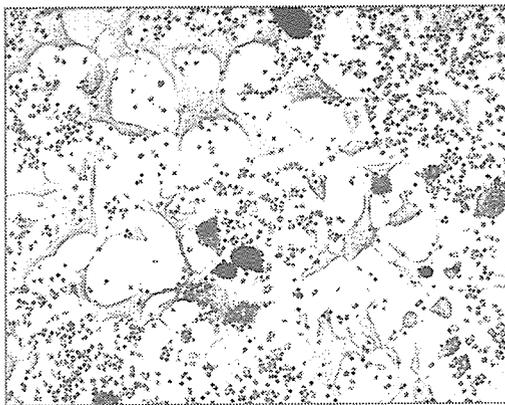
野生型 (非分節、外来遺伝子なし)

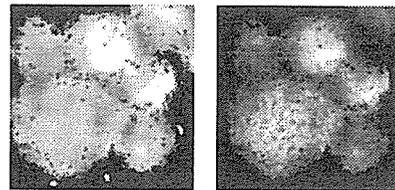
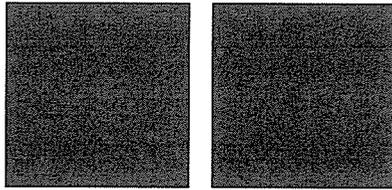
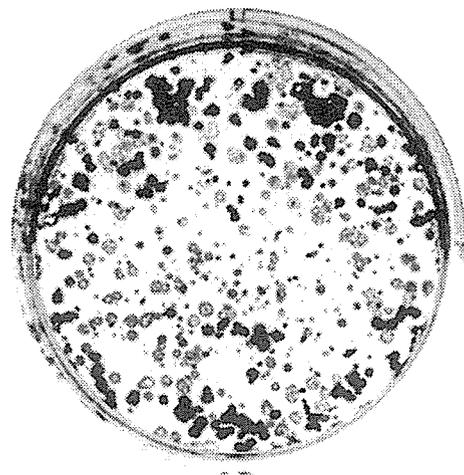
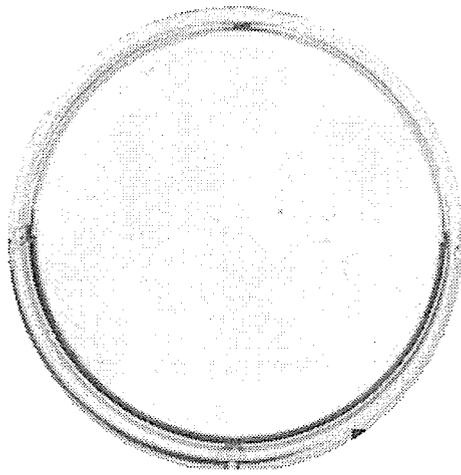
2分節 (2外来遺伝子挿入)

Le LacZ N P Tr

Le GFP M F Tr

Le EGFP H L Tr

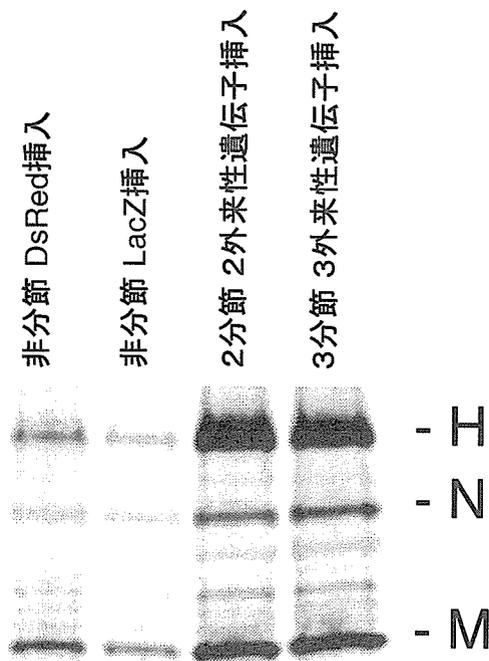




野生型(非分節、外来遺伝子なし)

3分節(3外来遺伝子挿入)

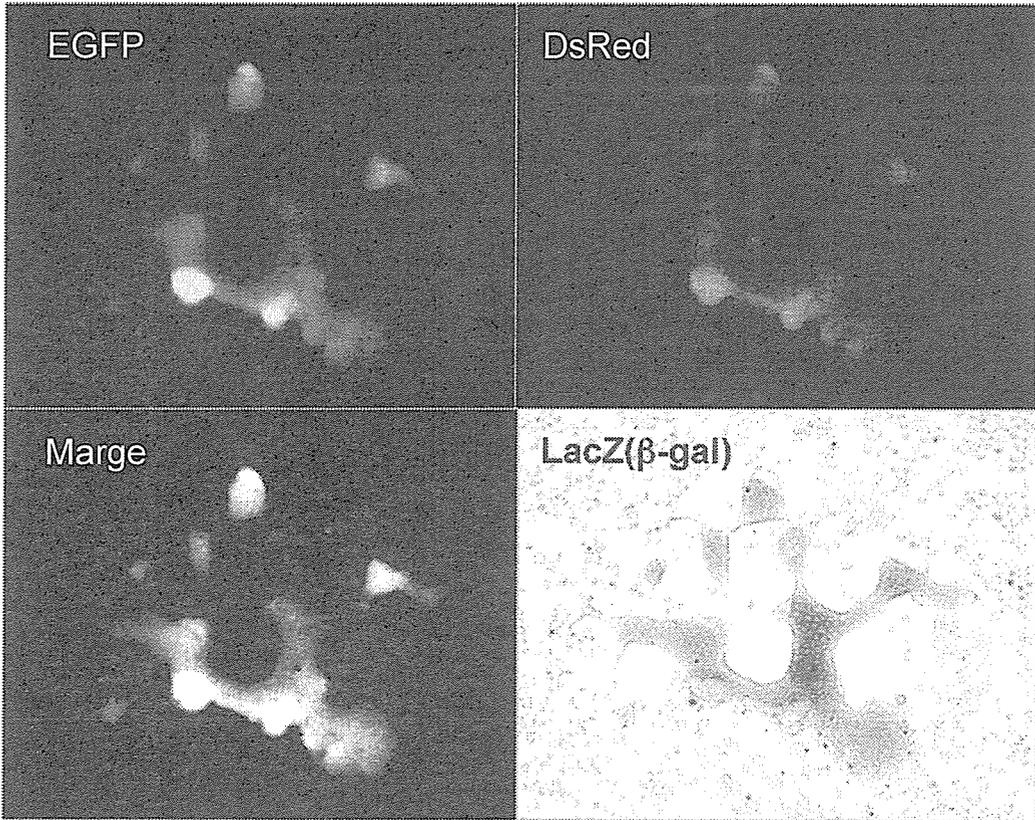
蛋白発現



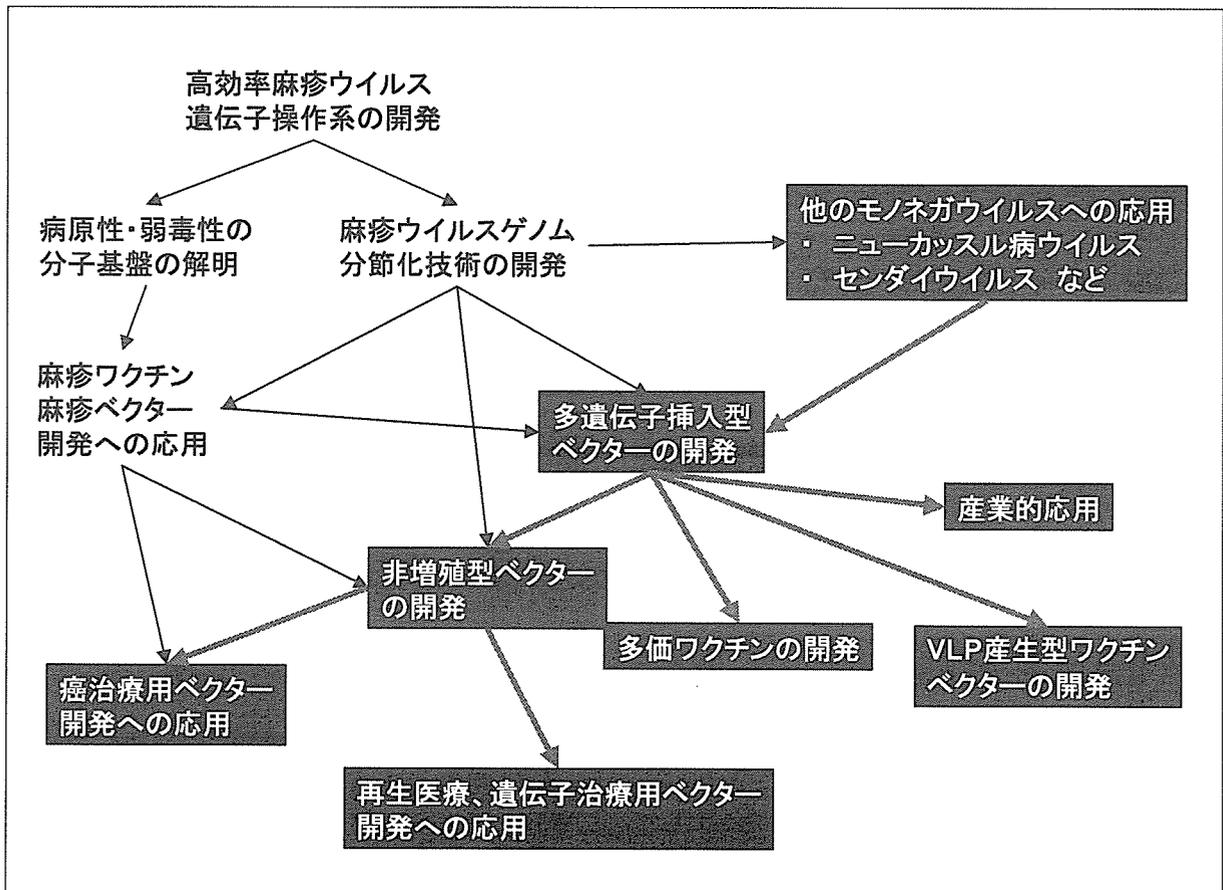
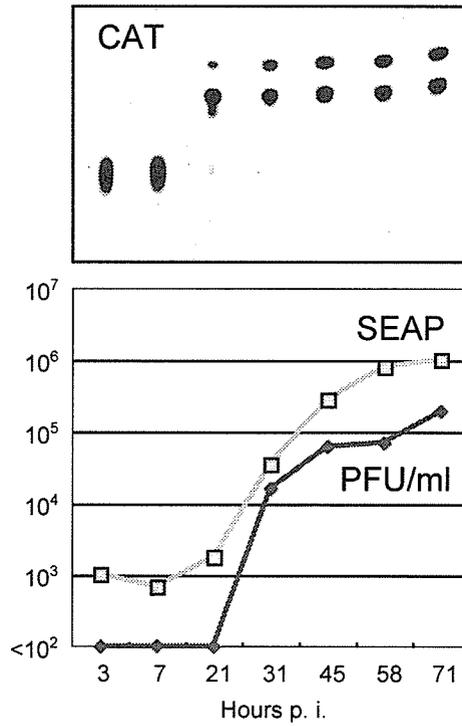
Le LacZ N P Tr

Le DsRed CAT M F SEAP Tr

Le EGFP H L Tr



3分節 5外来性遺伝子挿入



まとめ

極めて効率の良い麻疹ウイルスの遺伝子操作手法を確立した。

ワクチン株の細胞馴化や弱毒化に関わるアミノ酸変化を明らかにした。

ゲノムを分節化することにより多数の外来性遺伝子を発現する麻疹ウイルスを合成できることを明らかにした。

これらの知見や技術を応用することにより、麻疹ウイルスを基礎にした新しいワクチンやウイルスベクターが開発できると考えている。

九州大学ウイルス学教室

